

経済・金融フラッシュ

No.07-123 2007/12/17

07年7-9月期資金循環統計～貯蓄から投資の流れ足踏み

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 矢嶋 康次

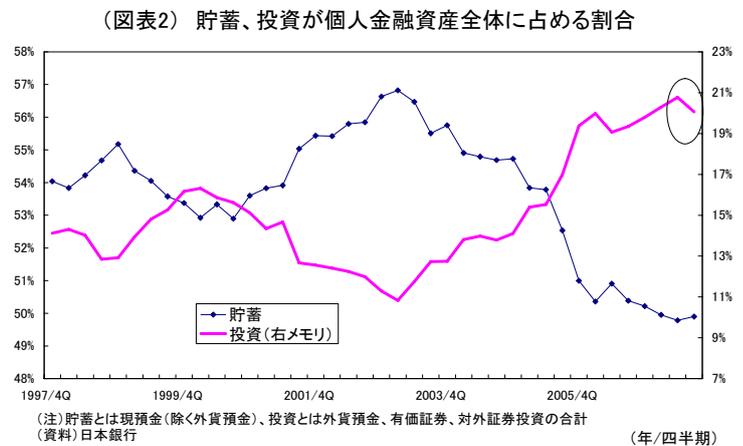
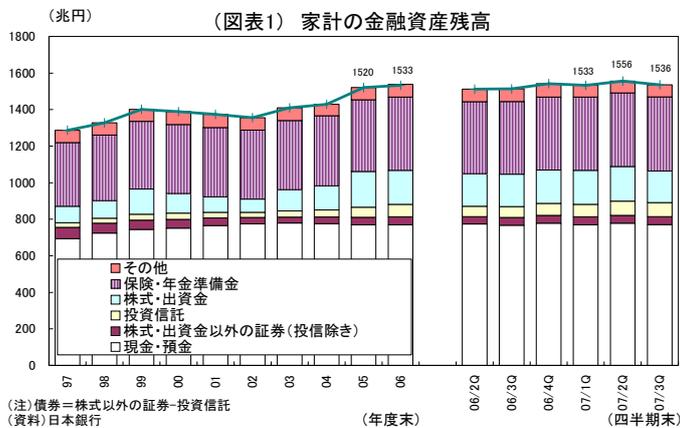
TEL:03-3512-1837 E-mail:yyajima@nli-research.co.jp

1. 個人金融資産残高 (07年7-9月期末) : 貯蓄から投資の流れ足踏み

07年7-9月期末の個人金融資産残高は、4-6月期から20兆円減の1,536兆円となった(図表1)。

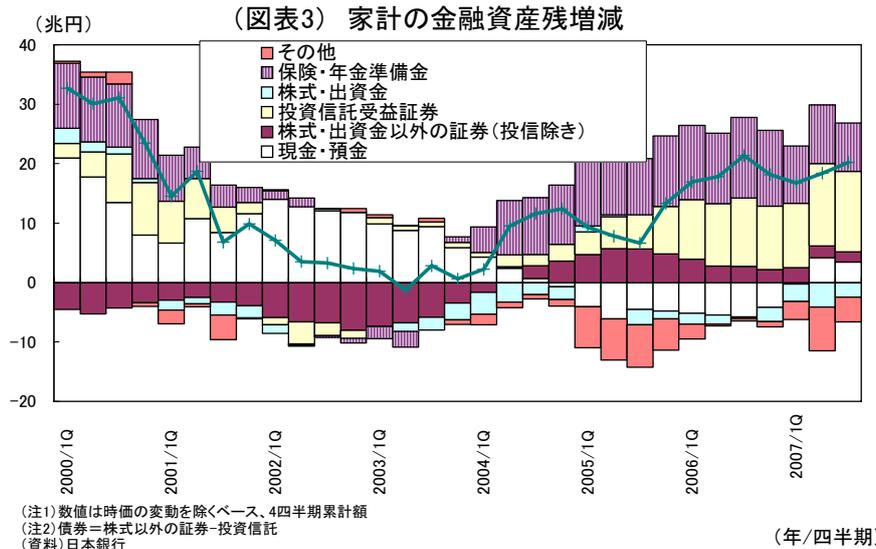
残高では、現金・預金が770兆円、保険・年金準備金が405兆円、株式・出資金が173兆円の順番が多い。

図表2のように貯蓄と投資に分けてみると、足元サブプライム問題の影響拡大や金商法の改正などが響き投信を中心にリスク性商品への流れが足踏み状態となっている。



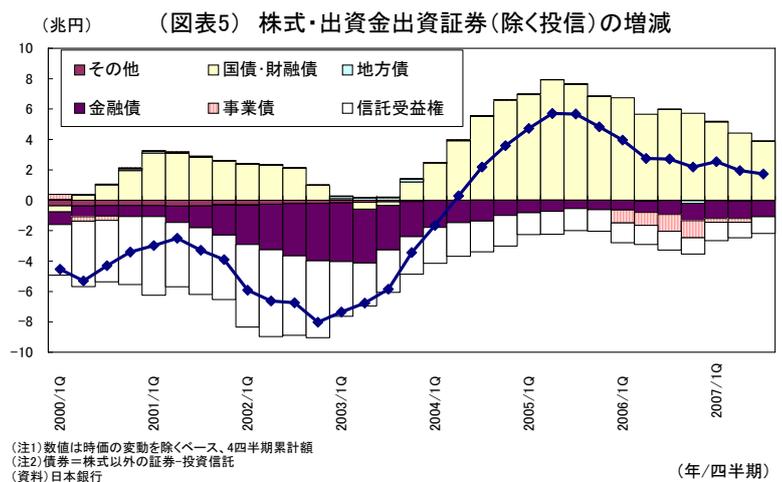
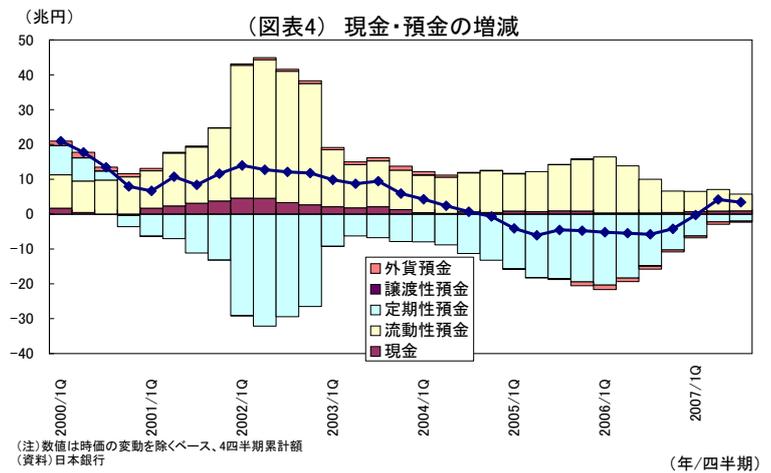
2. フローの動き

増加の内訳を見ると(時価の増減を除き、4四半期累計での金額)、増加が大きいのは投資信託(13.5兆円)、保険・年金準備金(8.1兆円)となっている。一方減少が大きいのは株式・出資金(マイナス2.5兆円)となっている(図表3)。増減の内訳構成は前四半期と同様となっている。



個別の内訳の特徴としては、

- ① 投資信託は 7-9 月期の純増額が大きく落ち込んでいる (4-6 月期 6.0 兆円純増→7-9 月期 1.7 兆円純増)。
- ② 現金・預金が 2 四半期連続のプラス (時価の増減を除き、4 四半期累計での金額) (図表 4)。
- ③ 定期預金(マイナス 2.0 兆円)、外貨預金 (マイナス 0.3 兆円) と減少幅が縮小してきている。一方、流動性預金は 4.8 兆円と緩やかな増加が続く (時価の増減を除き、4 四半期累計での金額) (図表 4)。
- ④ 証券 (投信信託を除く株式・出資金以外の証券) では、引き続き金融債、信託受益権、事業債からの資金流出が続く。一方、国債への流入はプラスが続いているが、流入額は縮小傾向が続いている (時価の増減を除き、4 四半期累計での金額) (図表 5)。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものでもありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)